

大分大学国際交流推進戦略（2022～2027）

前文

1. 大分大学の国際化推進の基本理念

2. 基本目標

2 - 1 教育 - 国際力豊かな人材の育成

2 - 2 研究 - 国際的研究の推進

2 - 3 社会貢献・国際貢献の推進

大分大学国際交流推進戦略（2022～2027）

令和 4 年 3 月 22 日
役員会 決定

前文

大分はかつて異文化交流の国際的な先進地であった。大分大学は、2003 年旧大分大学と旧大分医科大学の統合による新「大分大学」の設置、2004 年の国立大学法人移管を経て、現在は 5 学部、5 研究科から成る大分県における唯一の国立大学法人である。大分大学は、この進取の伝統を受け継ぎつつ、地域の「知の拠点」としての大学として、国際交流の柱である学生交流、研究交流及び海外拠点形成を推進してきたところである。

2008 年に政府がグローバル戦略展開の一環として推進してきた「留学生 30 万人計画」により、国内の留学生は 30 万人を超え、日本人学生と外国人留学生が共に学ぶ環境が充実してきた。本学でも、第 3 期中期計画期間において、外国人留学生の受入れを積極的に行い、また、学部独自のプログラムなどにより派遣留学生を増加させた結果、令和元年度は全学生のうち、外国人留学生の割合が、学部及び大学院を合わせて 1.51%、派遣留学生（日本人の海外留学生）割合は、学部及び大学院を合わせて 1.29% となり、日本人学生と外国人留学生が共に学ぶ講義の充実も図ったが、2020 年初頭からの新型コロナウイルス感染症の世界的拡大により、教育・研究とも大きな影響を受け、その影響が今後しばらくは継続することも予想される。

大分県は、人口 10 万人当たりの留学生数が常に全国上位の県であり、おおいた地域連携プラットフォームなどを通じ、他機関と連携・協力する中で、国立大学としての役割を果たし、本学の強みや特色ある分野における取組を行い、本学の国際化の更なる進展を目指しつつ、その取組のスピードを加速させるため、これまで第 1 期（2009～2011）、第 2 期（2012～2015）、第 3 期（2016～2020、新型コロナウイルスの感染拡大により 2021 まで延長）を策定し、国際交流の柱である学生交流、研究交流、海外拠点形成を推進してきた。

この度、新型コロナウイルス感染症により縮小した国際交流の復活と次の時代に向けた新たな教育・研究・社会連携に関わる国際交流戦略を見直し、「大分大学国際交流推進戦略（2022～2027）」を策定するものである。

1. 大分大学の国際化推進の基本理念

「大分大学の基本理念」は、「地域の発展ひいては国際社会の平和と発展に貢献し、人類福祉の向上と文化の創造に寄与する」と掲げている。新しい大分大学の国際交流推進戦略においてもこれを前提として、国際交流推進の基本的戦略を定める。

本学では令和3年10月に教育・研究に関わる組織の大幅な改編を行った。この中で、本学の教育・研究・社会貢献全てを俯瞰して国際化推進に関する方向性や理念を担う組織として国際連携委員会を新設した。また、この委員会で決定した方向性や理念に基づき、同時期に設置した教育マネジメント機構国際教育推進センターが学生交流（派遣・受入れ）の推進を担い、研究マネジメント機構研究推進センター国際戦略推進部門が国際共同研究の推進を担うこととした。さらに、同時期に本学初となる全国共同利用研究施設として設置したグローバル感染症研究センターも加え、各学部独自の国際戦略の取組とも連携することにより、本学の国際交流推進戦略を積極的に推進する。

2. 基本目標

2-1. 教育－国際力豊かな人材の育成

国際社会で活躍できるための基礎的外国語能力として、協定校が設定しているレベルをクリアできるよう、英語による講義数を増加させるとともに、英語講義の実施方法や教材等の好事例を共有し充実を図り、学生の語学（特に英語）能力を高める取組を引き続き全学的に遂行する。それらを基に知的言語運用力、その修得に必要な総合的教養、グローバル科目（国際教育推進センターによる国際教育フロンティアプログラムなど）の学習を基礎とし、その後の専門的知識、論理的思考力の育成を目指す。学部独自の交流プログラム（経済学部 IBP プログラム、医学部のダブルディグリープログラムなど）を中心としながら、関連する科目や企画との効果的な連携を通して、ローカル（地域、特に大分）への理解を深める交流も推進する。それにより相互理解をより深化させたグローバル人材の育成を図る。

さらに東九州メディカルバレー構想を基盤とした企業へのインターンシップ、海外留学へのサポートなどの事業を、医学部新学科での新たな語学・国際教育プログラムとして打ち立てる。

また、コロナ禍を経て急速に浸透したリモートを活用したオンライン教育（JV-Campus プラットフォーム）などを積極的に導入するとと

もに、本学の特色ある開放授業、公開講座等を国内外の希望する学生に配信する取組を全学的に目指す。

また、国際的に活躍できる人材育成のためには、語学力向上を目的とした短期留学をきっかけに、長期留学につなげていくことも重要である。海外の語学研修カリキュラムを積極的に受講できるような体制を全学的に整備し、特にカリキュラム上、経済上の問題で海外留学への機会が十分とれない学生へ語学力を高める教育としての活用を図る。

学生交流（派遣・受入れ）の重点地域として、受入れ国が規定する語学レベル、日本語運用能力の高い優秀な留学生の受入れが担保されるのであれば、学生交流（派遣・受入れ）の重点地域として地域を特定するものではない。大分大学における学生交流は、地政学的にアジア諸国が中心となろうが、受入れ・派遣のいずれにおいても相互の文化・社会・習慣を尊重し、柔軟な思考力を持った国際人の育成を進める。

また、講義等においては、歴史的に外国文化との関係が深い大分の多文化の特徴を教授し、地域と世界の有機的関係について理解を促進する。

これまでに本学が多様な大学から留学生を受入れていることから、交換留学のバランス（派遣・受入れ）については、表面的・短期的視点で個別大学とのバランス（ミクロバランス）に固執せず、数字の背景にある実態も同時に精査し、全体的なバランス（マクロバランス）に配慮した、長期的な派遣・受入れの拡大均衡に資する方針を図る必要がある。

2-2. 研究－国際的研究の推進

大分大学は、創造的な研究活動によって真理を探究し、知的成果を大分の知から世界へ発信し、総合大学の特性を活かし、幅広い学問領域や学際的研究により新たな学問分野の創造を目指すと掲げている。

本学ではこれまで、特に医学感染症研究分野で行われてきた世界最高峰の研究の成果を集結させ、新たな感染症研究の全国共同利用研究施設として、令和3年10月にグローバル感染症研究センターを開設し、国内外の研究機関と共同研究を実施し連携強化を図ることとした。同じく設立された研究マネジメント機構では、グローバル感染症研究センターとともに本学における国際共同研究を推進する体制が強化され、今後は国際共同研究の一層の推進と共に国際共著論文数のさらなる増加を図る。今後、全学的に国際的に評価の高い論文誌への投稿や

国際学会等への発表により、国内外に向けて研究成果を発表するとともに、各学部、研究マネジメント機構では多様な学問・研究分野における国際共同研究の可能性のある研究者を掘り起こし、支援する事にも注力する。

これらを更に推進するため、国際共同研究をサポートする競争的資金の獲得を目指し、科研費の国際関係研究種目、JSPS, AMED, JICA, JSTなどの大型国際共同研究プロジェクトの獲得について積極的に取り組む。

2-3. 社会貢献・国際貢献の推進

国際貢献の推進について、対外的な貢献（国外における貢献活動）はもちろん重要であるが、同様に日本国内における貢献、とくに地域における貢献の充実も欠かせない。大学自身を国際化するためには、全学部の教職員及び医学部附属病院、キャンパスの国際化は必須の課題である。そのためには、教職員の海外研修等の機会を増やし国際化対応能力の向上、とりわけ英語対応能力を備えた事務職員を増やし、外国人に配慮した医学部附属病院やキャンパス内環境の整備等が不可欠である。さらに、外国人研究者の積極的採用を行う。

これらの国内での努力を進めた上で、前述の国際共同研究などを基盤としたさまざまな国際交流活動、社会実装活動に広げていくことができるものとする。具体的には、本学が主幹校を務める国際的な医療貢献「アジア内視鏡人材育成大学コンソーシアム」等を活用し、アジア諸国を中心に、多分野において日本の優れた医療技術を紹介し、指導することで、現地での医療人材の育成を支援し、医療水準向上や健康長寿社会の実現に貢献する。

また、大分大学バンコクオフィスを留学情報発信基地及び留学希望者との面会スペースとして積極的に活用するとともに、本学の海外拠点として、医療分野における活動に限らず、全学的な共同研究先の紹介やサポートを行い、さらには、タイをはじめとしたアジア各国での研究開発・医療系の拠点づくりへの貢献など、東九州メディカルバレー構想において産学官が連携して行う活動の充実に向けた体制を構築する。